

「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです」：15。

I 神ご自身が、真理、福音を私達に語る前に、まず愛を示された。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました（クリスマスに。私達の罪の身代わりに刑罰を受け私達の罪を完全に償う為に十字架で死ぬ為に。クリスマス十字架に神の愛が現れている！）。

ここに愛があるのです」Iヨハネ4：11。

- ① まず神ご自身が私達罪人である人間に愛を示された後、
- ② 世界中に真理、福音が広まるようにされた。

II キリストご自身。

「ことばは人となって、私達の間に住まわれた」ヨハネ1：14。

主は、姦淫の場で捕えられた女に愛を示し、真理を語られた。ヨハネ8：1-11。

主は、まずザアカイに愛を示して真理を語られた。ルカ19：1-10。

III パウロも、まず、愛を示し、仕え、関係作りをして真理、福音を語った。

「私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。律法を持たない人々に対しては、一私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが一律法を持たない者のようになりました。

それは律法を持たない人々を獲得するためです。弱い人々には、弱い者になりました。

弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。

それは、何とかして、幾人かでも救うためです。私はすべてのことを、福音のためにしています。

それは、私も福音の恵みをとともに受ける者となるためなのです」Iコリント9：19-23。

迫害者から、神の憐みを受け、救われ、伝道者となったパウロは、上から目線で、

関係作りも無視して福音を語ったのではなく、すべての人々に、神からいただく愛をもって仕え、関係作りをして、愛をもって真理、福音を語った。

IV 聖書の他の箇所。

- ① 「たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。また、たとい私が預言（神から御言葉を預かり人々に語る）の賜物を持っており、またあらゆる奥義に通じ、また、山を動かすほどの信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません」Iコリント13：1-2。

愛が先になれば、どんな良い事を語っても届かない。

愛がなければ、優れた賜物も用いられず、何の値打ちもない。まず、神の愛を祈り求め、奉仕をさせていただきたい！

- ② 「もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊（御霊の実は愛）の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい」

ガラテヤ6：1。

柔和な愛の心もなく、人を正しても、相手は心を開かない。その忠告は役に立たない。祈りつつ柔和な愛の心で人を正すなら、神は働かれ、その愛から出た忠告は用いられる。無駄にはならない。

③「柔らかな答えは憤りを静める」箴言15：1。

愛ある柔らかな答え、愛ある語りは、相手の憤りを静める。

④「忍耐強く説けば、首領も納得する。柔らかな舌は骨を砕く」箴言25：15。

祈りつつ神からいただく愛による柔らかな舌、語りは、頑固な心を砕き柔らかくする。首領、偉い人も、話を聞いてくれるように変えられる。

V 愛をもって「真理を語る（原語：誠実、正直である。真実、真理を語る。真理を行う。真理に生きる）」。愛と真理、真実は、私たちが生きる大切な柱の二つ。

大切な人間関係、コミュニケーションの土台。我慢だけをして、愛をもって正直に自分の気持ちを相手に伝えなければ、成長し合う関係は作れない。ただ、正直に語れば良いわけではない。

そこに愛がなければ、真実は伝わらず、相手の心は閉じる。

愛とは、相手の人格を大切にす、相手の人格を受け入れる心である。

人は受け入れられると、その後「変えられるプロセスが始まる」。

それは、神のなさり方、神の御業！

失望せず祈り続けたい。相手だけを変えようとせず、まず自分自身が愛の人に変わられるように祈りたい。こちらに愛が与えられると、相手は心を少しずつ開き、愛をもって語り合える関係が生まれる。好みや意見が違って、互いに人格を大切にできるように祈りたい。

話し合いの場でも、人格と意見を区別できるように祈りたい。それが成長である。

愛をもって真実を語る（エペソ4：25）事と

愛をもって聴く（ヤコブ1：19）事が互いにできますように。

VI 私達。真理、真実、福音を語る前に、神から愛をいただいて愛による関係作りが大切。

それができてから、真理、真実、福音を語る事が出来る。私達が、語られる側、聞かされる側ならどうかを考えてみたい。関係作り、関係が良くない人から、真理、真実、福音を語られても、聞きたくない。かえって、心を閉ざしてしまう。逆に関係が良い人から、真理、真実、福音を語られると、聞き易いし、受け入れ易い。

※主を信じるには、神の時、御聖霊の働かれる時があるが、主の姿に成長している人とは、真理、真実を愛もなく語る人ではなく、「愛をもって」、「真理」を語る人である。

愛と真理、真実のバランスがある人である。

祈り：愛もなく、真理、真実、福音を語る事がありませんように。

愛の関係作りをしつつ祈りつつ、真理、福音、真実を語る事が出来ますように。

あらゆる点においてキリストの品性（愛と真理、真実に満ちた方）に成長できますように！